

所在地：目黒区五本木 1 - 12 - 13 東急東横線 祐天寺駅 徒歩 1 分

学校名： 上目黒小学校		作成年月日：H.11.09.17	調査日：H.16.7/16.7/23
施設タイプ		岩石園利用型	
環境概況	植 物	・コガマ、サンカクイ、シマガヤが混生し、密度の高い生育状況となったが、昨年の抑制作業で水面が確保されている。水面はヒルムシロ、オオフサモで覆われている。北側の浅い部分ではセリ、ミゾソバ、サンカクイの生育範囲が広がっている。	
	動 物	・メダカ及びその稚魚を多く確認した。 ・ヤゴの脱け殻を確認した。	
	水 質	・透明度があり、良好である。 ・給水は、主事の方が行っている。	
	周 辺 環 境	・池周りは観察時の踏圧により裸地化している部分が多いが、セイタカアワダチソウなど除去すべき種も見られる。 ・周囲の樹木は適切に管理され日陰にならないようになっている。	
	土 壌	・昨年度に、土の補充と石による固定作業を行ったことから、水辺の草地育成環境は回復しつつある。 ・泥上げを行ったことにより水深を 50cm ほど確保している。	
活動状況	管 理 体 制	・今年度は、管理作業担当学年が決定せず、草取り作業などが行われていない。	
	管 理 状 況	・水面がほぼ覆われていたため、抑制作業は教師が行っている。	
	利 用 状 況	・4年生が継続的な観察活動を行った。 ・生活科、理科ではトンボの羽化を観察するなどの利用が行われ、児童の興味も高く自由に観察している。	
今後の予定・計画		・全校児童に対する観察の推奨、観察マナーの徹底などの呼びかけを行い自由な利用を進めている。	

作成後の主な活動経過

年月日	活動内容	参加形態
H. 11.09.17	池の作成	全学年
12 ~	授業での活用を行ってきた	全学年
14.07.17 .03.11	ビオトープを活用するための勉強会 ビオトープ環境改善のための勉強会	教師 教師
15.04 ~ 07.08 08. 15.01	草取り、石拾い 水草の除去作業を実施した 水草の除去作業を実施した	担当教師 5年生 教師数名 5年生
16.04 05	観察活動(4.6.9月) 観察マナーのポスター掲示、配布	4年生

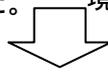
作業 2 週間後 (平成 15 年 7 月)



水面を確保するため、池中央の植物はほぼ除去し、水際の在来種 (サンカクイ、セリ、ミゾソバ、ヒルムシロなど) を中心に残した。



水際に露出していたシート上に田んぼの土を設置し、石の固定もかねて、水辺の土壌環境を再生した。



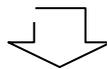
作業 7 週間後 (平成 15 年 8 月)



泥を補給したことにより、手前の水際部分には草本が生育し始め、水面と連続した環境が創出された。



水面を維持するとともに、残した在来種 (サンカクイ、セリ、ミゾソバ、ヒルムシロなど) が繁茂し、落ち着いた環境が造られつつある。



調査時 (平成 16 年 7 月)

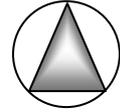


浅瀬部分に、セリ、サンカクイ、ミゾソバなどが生育範囲を広げた。

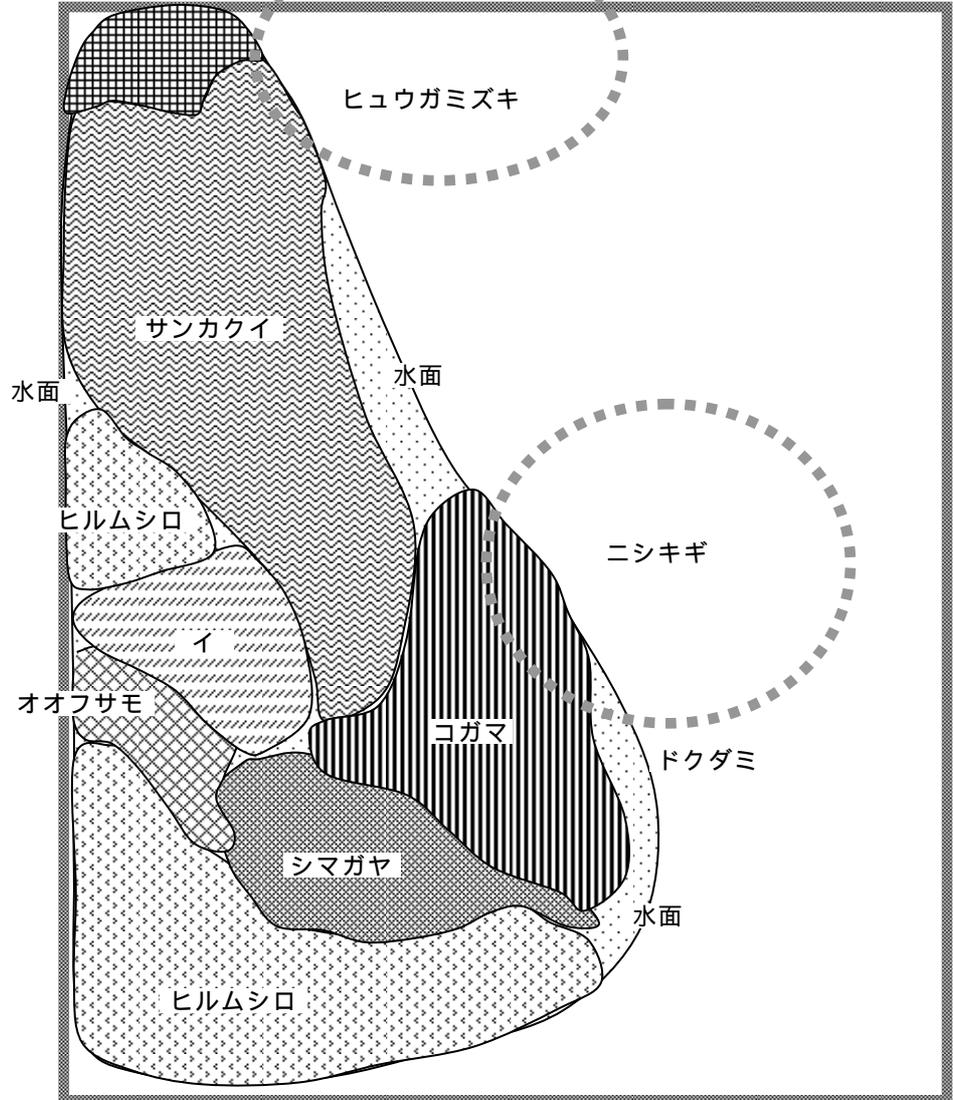


昨年度の草取り作業によって、一時的に水域が確保されたが、除去対象であるシマガヤ、オオフサモによって水面が覆われている。

上目黒小学校
<平成13年度>

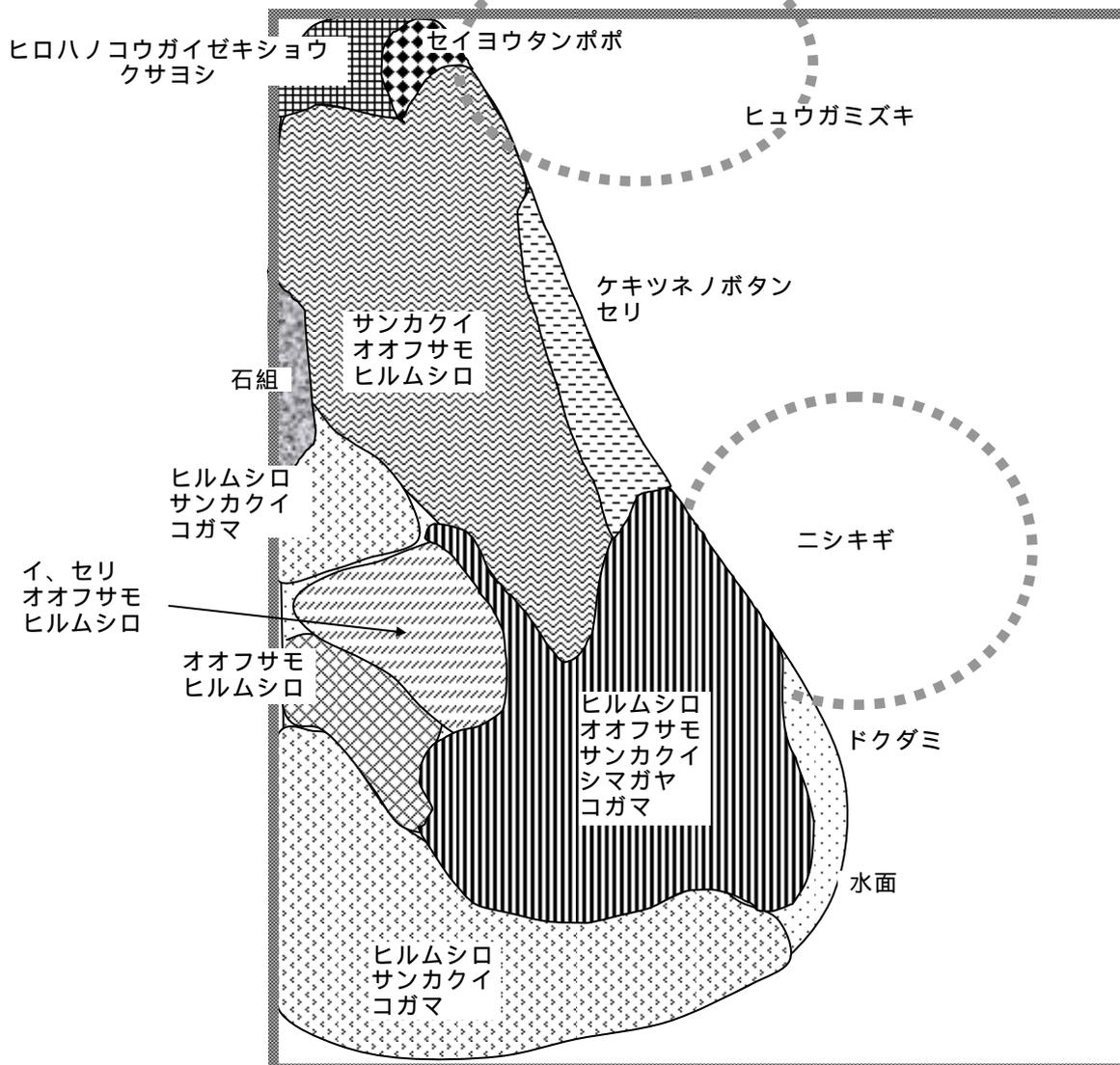


ヒロハノコウガイゼキショウ



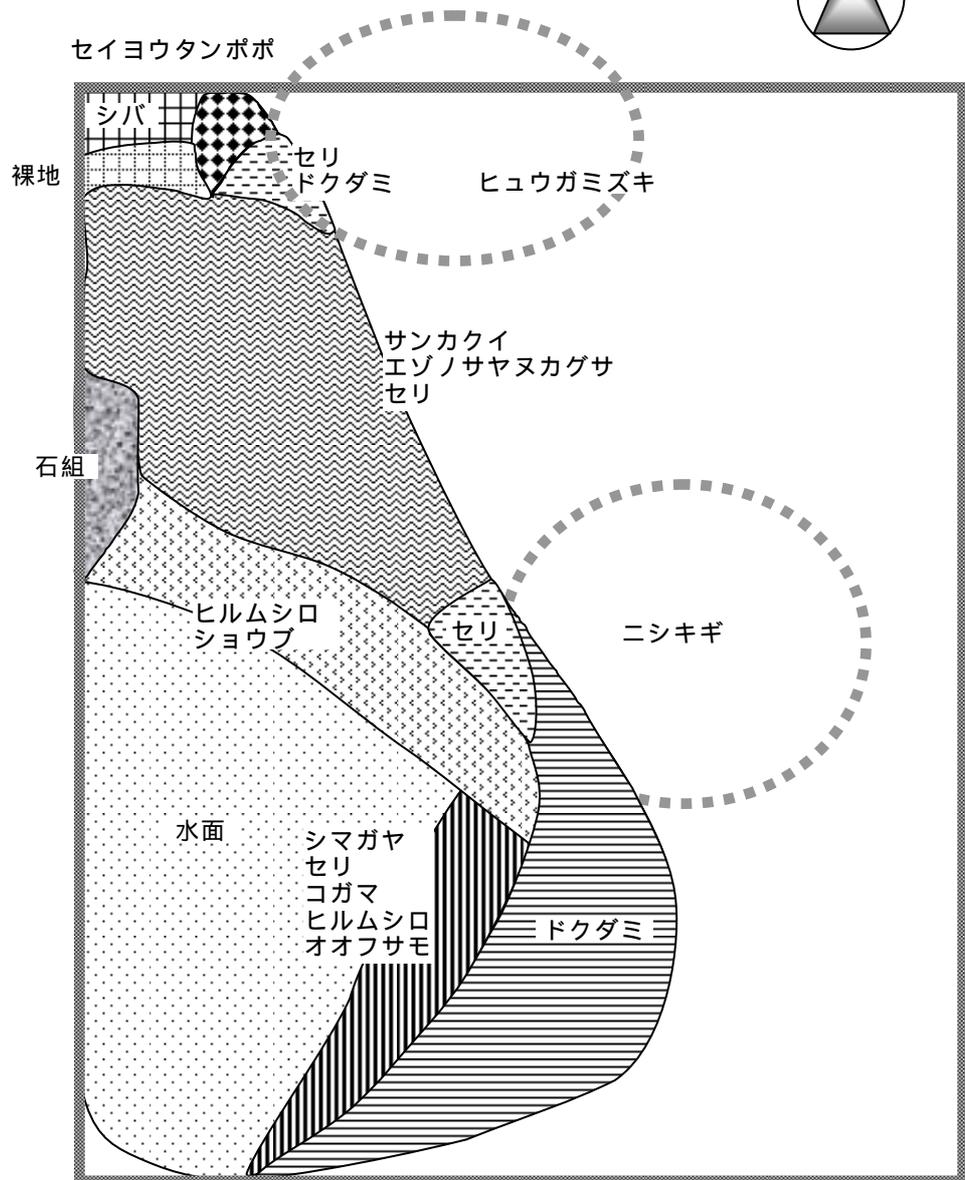
日当たりが良く、池内の植物が繁茂し、水面がほとんど覆われている。植物は区内では貴重なヒルムシロやサンカクイなどが生育している環境である。水辺の多様な生きものがすめる環境とするためには、各植物を整理して水面が7割ほど見えるような管理を行う必要がある。

<平成14年度>



日当たりが良く、池内の植物が繁茂し、水面がほとんど覆われている。植物は区内では貴重なヒルムシロやサンカクイなどが生育している環境である。土壌条件が良いためか、前年度にはモザイク状の群落が形成されていたものが、コガマ、ヒメガマ、ヒルムシロ、オオフサモなど地下茎や茎を伸ばして増えるものを中心に、池全体に広がりを見せている。

水辺の多様な生きものが棲める環境とするためには、各植物を整理して水面が7割ほど見えるような管理を行う必要がある。特に、今後、コガマやシマガヤが強く繁茂する可能性が高いので、これらについては、地下茎を取り除くなどの管理を行う必要がある。コガマについては穂に子供の関心が集まっているようなので、教材としての意味も大きく、穂が終わる秋以降に管理を行うことが望ましい。

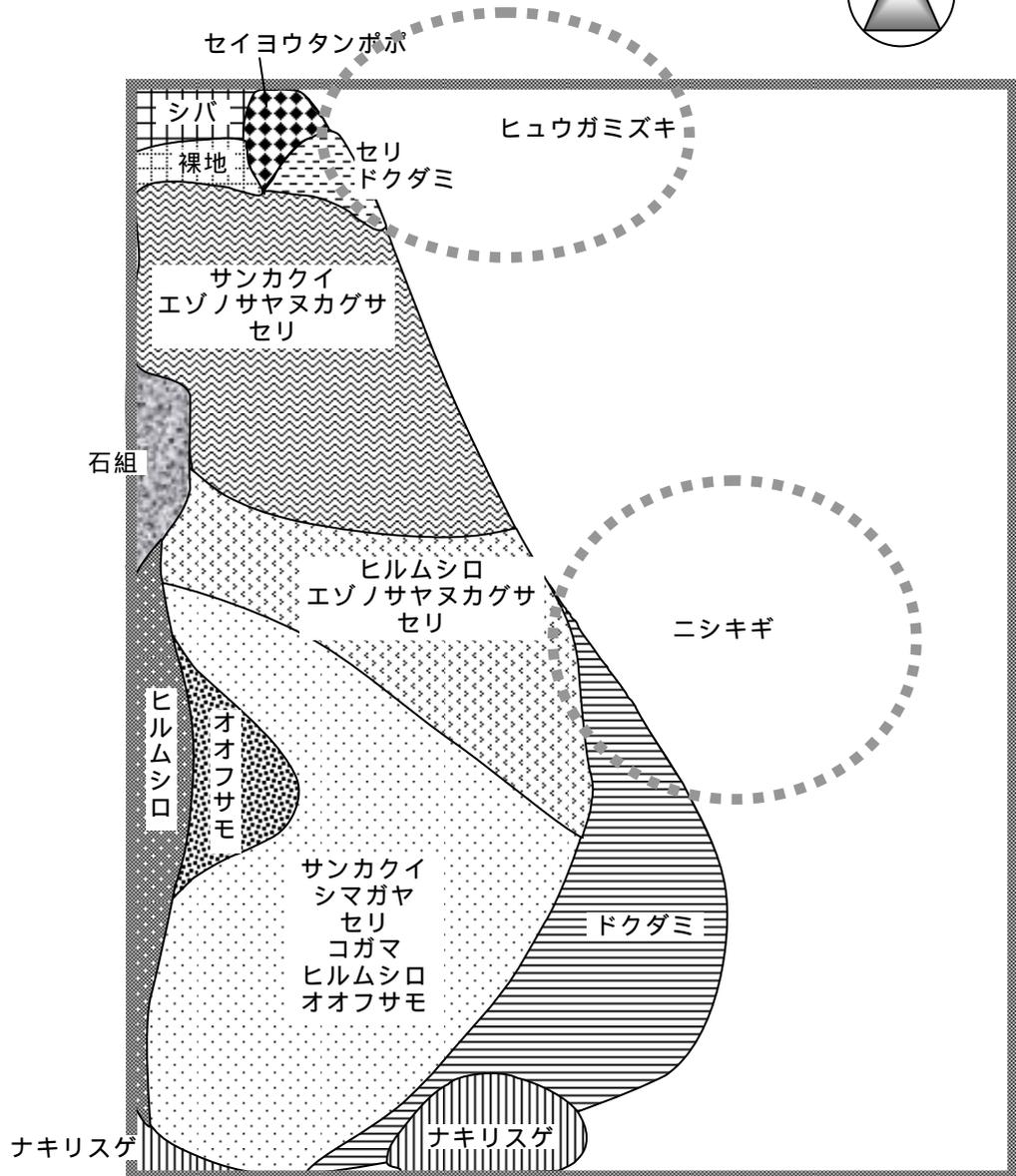
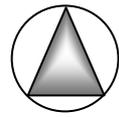


今年度初めて、児童参加による管理作業を実施した。これまで、植物の繁茂により水面がほとんど覆われていたため、水面の確保を目標にして、水深の深い部分の植物の除去及び泥上げ作業を行った。残す植物は在来種のヒルムシロ、サンカクイ、セリを中心とした。一方、オオフサモ、シマガヤは除去の対象とし、コガマは水際に残すこととした。

池の北側半分は、サンカクイ、エゾノサヤヌカグサ、セリなど、湿生の草本を中心としたものに移り変わっているが、セイトカアワダチソウなどの侵入も見られる。

作業実施の2週間後には、植物の生育状況も安定し、水の透明度も回復し、メダカの稚魚も多く確認された。今後は、定期的な管理作業によって、環境全体に大きなダメージを与えない管理を行っていく必要がある。そのためには、日常的な観察の継続が判断基準となる。

<平成16年度>



池の北側半分は泥上げを行い、水深を確保したことから、サンカクイ、エゾノサヤヌカグサ、セリなど、湿生の草本を中心としたものとなっているが、陸地部にはセイタカアワダチソウなどの侵入も見られる。

池の南側には、園芸品種のシマガヤや、外来種のオオフサモが依然として繁茂し、他の植物を抑えているため、草取り作業時には、根の部分までできるだけ除去することが必要である。

また、ヒルムシロの繁茂により、水面が見えない状態となりやすいので、水中の生物の観察のためにも随時抑制する必要がある。